

【古典文法 助動詞「き・けり」識別①】

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- | | | |
|------|------|-----|
| (11) | (6) | (1) |
| (12) | (7) | (2) |
| (13) | (8) | (3) |
| (14) | (9) | (4) |
| (15) | (10) | (5) |
- (1) かぐや姫は、罪をつくり給へりければ、かくいやしきおのれがもとに、（竹取物語）
- (2) （予想以上に壊れている自分の家を見て） 家に預けたりつる人の心も、荒れたるなりけり。（土佐日記）
- (3) 信濃の国に更級といふ所に、男住みけり。若き時に親死にければ、（大和物語）
- (4) よべは隠れ忍びてあるなりけりと、あはれに添へてをかしきことかぎりなし。（枕草子）
- (5) 透垣のただすこし折れ残りたる隠れの方に立ち寄りたまふに、もとより立てる男ありけり。（源氏物語）
- (6) 坊の傍らに、大きなる榎の木のありければ、人、「榎の木の僧正」とぞ言ひける。（徒然草）
- (7) 月のいとはなやかにさし出でたるに、今宵は十五夜なりけりと思し出でて、（源氏物語）
- (8) 鶴の渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにける（小倉百人一首）
- (9) 和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、（十訓抄）
- (10) いかに思ひ始めることにか、世の中に物語といふもののあるを、いかで見ばやと思ひつ（更級日記）
- (11) 人はいさ 心も知らず ふるさとは花ぞ昔の香に匂ひける（古今和歌集）
- (12) 石田次郎為久が討ちたてまつりたるぞや。と名のりければ、今井四郎、いくさしけるが、（平家物語）
- (13) と申したまひければ、「朕をば謀るなりけり。」とてこそ泣かせたまひけれ。（大鏡）
- (14) と詠みて、夜のほのぼのと明くるに、泣く泣く帰りにけり。（伊勢物語）
- (15) 殺さむとしければ、忠明も太刀を抜きて、御堂ざまにのぼるに、（宇治拾遺物語）

【古典文法 助動詞「き・けり」識別①】解答

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ⑪ 詠嘆 | ① 過去 | ② 詠嘆 | ③ 過去 | ④ 詠嘆 |
| ⑫ 過去 | ⑦ 詠嘆 | ⑧ 詠嘆 | ⑨ 過去 | ⑩ 過去 |
| ⑬ 詠嘆 | ⑫ 過去 | ⑬ 詠嘆 | ⑭ 過去 | ⑮ 過去 |
| ⑭ 過去 | ⑮ 過去 | | | |
- ① かぐや姫は、罪をつくり給へりければ、かくいやしきおのれがもとに、（竹取物語）
- ② （予想以上に壊れている自分の家を見て） 家に預けたりつる人の心も、荒れたるなりけり。（土佐日記）
- ③ 信濃の国に更級といふ所に、男住みけり。若き時に親死にければ、（大和物語）
- ④ よべは隠れ忍びてあるなりけりと、あはれに添へてをかしきことかぎりなし。（枕草子）
- ⑤ 透垣のただすこし折れ残りたる隠れの方に立ち寄りたまふに、もとより立てる男ありけり。（源氏物語）
- ⑥ 坊の傍らに、大きなる榎の木のありければ、人、「榎の木の僧正」とぞ言ひける。（徒然草）
- ⑦ 月のいとはなやかにさし出でたるに、今宵は十五夜なりけりと思し出でて、（源氏物語）
- ⑧ 鶴の渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにけり（小倉百人一首）
- ⑨ 和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、（十訓抄）
- ⑩ いかに思ひ始めることにか、世の中に物語といふもののあるを、いかで見ばやと思ひつ（更級日記）
- ⑪ 人はいさ 心も知らず ふるさとは花ぞ昔の香に匂ひける（古今和歌集）
- ⑫ 石田次郎為久が討ちたてまつりたるぞや。と名のりければ、今井四郎、いくさしけるが、（平家物語）
- ⑬ と申したまひければ、「朕をば謀るなりけり。」とてこそ泣かせたまひけれ。（大鏡）
- ⑭ と詠みて、夜のほのぼのと明くるに、泣く泣く帰りにけり。（伊勢物語）
- ⑮ 殺さむとしければ、忠明も太刀を抜きて、御堂ざまにのぼるに、（宇治拾遺物語）